イチジクにおける出荷量の向上と新規栽培者の育成

大津・南部普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

栗東いちじく生産組合（平成６年設立、13 戸、88a）は、ハウス栽培や環境こだわり農業に取り組むなど、県内の代表的な産地であるものの、近年は樹勢低下と生産者数の減少により出荷量が減りつつあります。

こうしたことから、樹勢の回復による出荷量の向上と、関係機関が一体となって設立した「栗東市チャレンジ農業塾協議会」を活用した新規栽培者の確保と育成を支援しました。

【普及活動の内容】

①施肥改善による樹勢回復

環境こだわり農業に準拠した栽培により、多くの園地で夏期の肥効が不十分であったことから、新梢上部が細くなる衰弱型の樹相になっていました。そこで、環境こだわり農業で施用できる化学肥料使用量の範囲内で、夏期まで肥効が続く緩効性肥料を新たに導入する施肥体系を提案し、夏期の樹勢維持を図りました。

写真１　施肥改善で回復した樹勢

②チャレンジ農業塾生の技術習得支援

チャレンジ農業塾生１名に対し、座学や生産者のほ場を活用して、新梢管理や収穫・調製作業の技術習得に向けた講座を４回実施しました。また、塾生の定植予定ほ場が排水の不十分な水田であることから、新規栽培に向け、排水対策や土壌改良の技術支援を行いました。

写真２　生産者ほ場でイチジク栽培を学ぶ農業塾生

【普及活動の成果】

活動の結果、今年度の組合の出荷量は、おおむね目標どおりの 12.4ｔ（前年比 122%）となりました。また、チャレンジ農業塾生も 12 月からハウス２棟で栽培を開始されました。

◎対象者の意見

今年は出荷量が増え、新規栽培者が現れ、さらには滋賀県果樹品評会で好成績を収めるなど、良い年になりました（生産組合長）。